

自然からの贈り物に思いを込めて

石田 泰清 (千葉市緑区大椎小学校長)

JR土気駅をあすみが丘方面へ降りて商店街を抜けると、そこには整然と並ぶ一戸建て住宅街群がはるかに続きます。その一戸建家屋も、まるで自己主張するかのように個性的で、住宅街の中にはいると西洋の住宅地の一角にいるかのような錯覚さえ覚えます。そして、遠巻きに見える杉林や雑木林は、かつてここが森林広がる広大な丘陵地であったことを思い起こさせます。

このように人間の力によって突如として表れた大規模な住宅群の間近に、ありのままに残されている自然の宝庫が息づいていることを、私は本校に着任するまで全く知りませんでした。

昨年、谷津田プレーランドプロジェクトの方々のお声がけのおかげで、本校5年生140余名が総合学習の一環として、動植物の自然観察学習や稲作体験をすることができました。ドジョウやトンボ、クモの仲間。水槽の中でしか見たことのない、自然のメダカが田んぼの小川をひとかたまりになって悠々と泳いでいる様子。数え上げればきりが無い程の小動物の仲間たち。子どもたちは名前を覚えていただいたり、調べたりして自然に対する興味や関心を高めていきました。まさに生きた学習です。

米作りでは、田おこしから収穫に至るまでの様々な体験をし、稲作の苦労や収穫の喜びを肌で感じてきました。本校のプールフェンスに掛けての稲の天日干し、櫛を使っての脱穀、もみすり……。一袋30キロに満たないお米でしたが、子どもたちは大満足。最後の仕上げは、わらを材料にしての綱作り、飾り作り……。無駄にするとところが何もない自然の贈り物。

これらの学習を通して、子どもたちに学んで欲しいことの一つは、自然は何もしないで、いつまでもその姿のままではないということです。自然は人の手によって守らなくては存続しない。このことを、谷津田プレーランドプロジェクトの方々や地元小山町の方々とふれあいを通して感じてきたことでしょうか。本校はこの貴重な体験学習を、これからも受け継ぎ、子どもたちが大人になっても次の子どもたちに、この自然の宝物を引き継ぐことができるような、また自然からの贈り物をいつまでも享受することができるような心豊かな子どもたちを育てたいと思います。

これまでのご理解とご支援、心より御礼申し上げます。

大椎小学校の新しい田んぼづくりはじまる

小山町 YPP スタッフ

昨年、大椎小学校5年生が米づくりを行った田んぼに土が入れられて使うのが難しくなったことから、アシ原となっていた場所(リンドウ広場下のYPP田んぼの隣)を新たに田んぼとして復活させることになりました。復田作業はYPP田んぼで経験していますが、スコップや鍬でアシや雑草の根を掘り起こすのは大変な作業です。2月のYPPの活動で作業を始めましたが、たくさんの力が必要なので学校を通じて親御さんにもお手伝いをお願いしていただき、2月から3月にかけて田んぼづくりをすることになりました。

第1回の2月27日は来年度お米づくりを体験する4年生のお母さん6人とYPPのスタッフ5人で田起こしをしました。作業に参加して下さったボランティアのお母さん方のほとんどにとって田起こしは初めてのことで、談笑したり、お茶を飲んだりしながら少しずつ作業を進めました。土の中にスコップや鍬が入っていかず、作業がなかなか進まなかったり、それでもアシの根切りされたところから水がしみ出ると田んぼらしくなっていくのがわかり、作業にも力が入ります。今回は1人あたり1m四方くらいの面積の田起こしで終わりました。

参加していただいた方からは、この田起こしの作業から子どもに経験させたいという声があがりました。田植え、稲刈りだけでなく、田起こし、草取りといったお米づくりの作業の全体を子どもに体験してもらいたいという思いはありますが、なかなか授業内で行うことは難しいようです。お母さん方から谷津田の心地よさ、作用の楽しさをお子さんやまわりの方々に伝えていただきたいと思います。

2月27日は北風が強く、残念ながら冬鳥の鳴き声、姿を確認することはできませんでしたが(準備のために集合時間前に田んぼへ来ていたスタッフはYPP田んぼの脇で羽を休めていたカワセミを見ることができました)。それでも1~2日前に産卵されたと思われるアカガエルの卵塊をいくつも確認し、生きものたちの春の準備を観察しながらこの日は解散しました。

新しい田んぼの予定地は今年の学校田んぼより少し狭いのですが、田起こしに参加して下さると方が増えてくれば、もう少し広げることができるかもしれません。本年度の収穫量は5年生全員が食するには十分といえない量だったため、少しでも多くの米を収穫できるよう耕作の面積を広げていきたいと思っています。今後の作業予定は、3月4日(火)、11日(火)、15日(土) 雨天の場合は16日(日)、19日(水)、25日(火)のいずれも10時から12時までです。3月15日は週末ですので、ぜひお父さん方にも参加いただければと思います。





里山たんけんレポート

第 97 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2008年2月3日(日) 雪

今日は朝から曇混じりの雨でしたが、観察を始めて間もなく雪となりました。みるみる谷津田は雪化粧を施しました。雪の降る谷津田の風情を楽しみながら下流の沼まで散策しました。ほとんど鳥の声もありませんでしたが、そんな中であってアオジだけはたくさんの声が聞かれ、いつもは人影ですぐ逃げるのに、平気でわれわれの前に姿を現し地上で餌を探っていました。このような天候で警戒心がなくなるのが不思議な感じでした。昨年この時期にはたくさんあったニホンアカガエルの卵塊は谷津全体で5つだけでした。このところ寒さが厳しく本来の産卵時期に戻ったのかも知れません。

(参加者 大人3名; 報告: 網代春男)

第 81 回 下大和田 YPP

「田んぼの手入れ、林の手入れとアカガエルの産卵調査」

2008年2月23日(土) 晴れ

恒例のニホンアカガエルの卵塊カウントからスタートしました。カウンターを手に YPP 田んぼを巡りましたが、合計 25 個と少数でした。昨年は暖かくて産卵が早く 2 月 1 日時点で 130 個でした。次に大塚さんの田んぼも数えました。ここは田の中に湧き水があって水温が高く一番早く産卵するところで合計 72 個、オタマジャクシに孵っているものもありました(昨年は 151 個)。次にひとつの卵塊にいくつの卵があるのか数えました。卵塊 5 個をすくってきて、透明な袋に少しずつとって大変な作業でした。最も小さい卵塊で 1264 個、大きい卵塊で 2041 個、5 卵塊の平均 1497 個でした。卵の中のオタマジャクシの形になりかかった姿を実体顕微鏡で観察もしました。



卵の数をかぞえる

さて昼食と言う時に、林のブランコの近くの草地にフクロウが落ちていたのが見つかりました。まだ硬直も起こっていないような落鳥したばかりと思える

ものでした。この谷津で 1 月 26 日と 2 月 17 日に観察された個体のように思えます。フクロウが下大和田の谷津に居ついてくれて喜んでいたのですが悲しく残念でした。広い下大和田の谷津で私達の林へ来て生を終えたのは私達のフクロウに寄せる思いが届いていたように思われてなりません。とりあえず、中央博物館へ持参して相談することとしました。

午後は My 田んぼと大塚さんの田んぼの間の葦原の草刈を有志でしました。ここは先日、地主さんにお会いして草刈の了解をいただいております、今後も折を見て草刈をすることにしています。

(参加者 大人 10 名、こども 2 名。 報告: 網代春男)

第 30 回 小山町 YPP「田んぼづくり」

2008年2月16日(日) 晴れ

今年大椎小学校の 5 年生が稲作体験をする田んぼづくりをしました。YPP 田んぼと同じように長年米づくりが行われていなかったのでアシが深く根を張り、雑草がびっしりはびこっていて、田起こしはなかなか大変です。固くなった地面をスコップを使って少しずつ小割りにして崩していきます。小学生のお母さん方、小学生、それに中学生も参加してくれて、みんなでわいわいにぎやかに作業を進めました。土の中から冬眠していたアカガエルやケラを見つけると歓声が上がります、みんなで観察しました。ケラが冬眠するなんて発見です! 作業のあと、あざみ谷を散策して冬の鳥などを観察し、最後においしいおしるこを食べて体を温めました。



子どもたちも大活躍!

(参加者 大人 12 名、子ども 14 名; 報告: 高山邦明)

アメンボ

アメンボとはどんな虫でしょう。田んぼ、ため池、雨の降った後の水溜り、学校のプール、水面のあるところ何処にでもいるお馴染みのアメンボ。そろそろ冬眠から覚めて姿を現す頃です。谷津田へ会いに行きましょう。

カメムシの仲間

いやな臭いを出して嫌われることの多いカメムシの仲間です。ですから、カメムシ同様においを出しますがアメンボは甘い匂いがします。名前もそこから付けられています。飴のような匂いがする棒のような虫で、飴の棒 アメンボです。

アメンボは水面で生活するカメムシで半水棲カメムシ類と言います。水中にいるアメンボに近いマツモムシやミズカマキリは水棲カメムシ類と言っています。

カメムシの仲間は尖ったストローのような口を餌に突き刺して汁を吸います。植物の汁を餌にする仲間と肉食の仲間がありますが、アメンボは肉食の仲間です。

水面に浮いて生活しています

アメンボの脚には細かい毛がいっぱい生えています。この毛で水をはじいて表面張力によって浮いています。また、脚先から油のような水をはじく物質も出しています。

水面をスイスイするように泳いで(?)いますが、真ん中の長い中脚で水面を漕いで進みます。前脚は身体を支え餌をつかむのに、後脚は身体を支え舵をとるのに使っています。

餌の見つけ方と食事

アメンボの長い脚先の毛には水面の波紋を感じる感覚を持っています。目も発達しています。水面に落ちた虫の波紋を感じて餌のありかを感知します。目でも水面に落ちる虫を見えています。水面に落ちた虫にすばやく駆けつけ、口を刺し体液を吸います。

飛びます

アメンボは4枚の翅があって飛びます。餌が取れそうなところを探して飛んで移動します。ですから雨後の水溜りにも現れます。ある種では、餌のある安定した環境にいるアメンボはあまり移動する必要がなく翅が短くなるもの、翅がないもの、が出現したりします。

よく目にするアメンボ

谷津田で目にしてるのは主に次の3種です(日本産は淡水に棲むもの20種、海に棲むもの6種が知られています)。

アメンボ

体長 11~14 13~16mm。3月末から11月初めに出現します。もっとも普通に目にするアメンボです。水田、水田の水路、水溜り、池、河川、湖沼 など広くいます。大きな池など安定した環境に棲むものは翅が短くなるものが出ます。写真では見えませんが腹部先端に二つの突起があります。



アメンボ

ヒメアメンボ

体長 8.5~10 10~11mm。3月末から出現します。8月には休眠にはいりますので秋には見られなくなります。田んぼの代表種、沼、水溜り、水辺に植物のあるところ。よく飛びます。アメンボとは腹部先端の二つの突起がないこと、小さいことで見分けられます。



ヒメアメンボ

シマアメンボ

体長 とも5~6mm。6月~12月に出現します。もっとも遅くまで越冬しないでいます。山地の溪流に棲みますが平地でも湧き水など流れのあるところになります。ほとんどの個体が翅のない無翅型ですが秋以降に翅のある長翅型が出現します。



シマアメンボ(無翅型)

試して見ましょう

水面に波紋を立ててみましょう。どんな行動をとるでしょうか。

匂いを嗅いで見ましょう。不用意につかむと口で刺されることがありますので注意しましょう。

【参考引用】

柴田佳秀氏 HP「アメンボ研究室」

<http://homepage3.nifty.com/shibalabo/>

大変良いHPです。是非ご覧ください。

(文・写真 網代春男)

谷津田・季節のたより

小山町

- 2月 2日 マヒワの群れがにぎやかに上空を飛翔(高山)
- 2月 10日 モズがオオヨシキリなどの鳴きまね(高山)
- 2月 17日 モズのカップルが求愛給餌(高山)
- 2月 19日 タチツボスミレが開花(齊藤)
- 2月 27日 アカガエルの卵塊を確認(齊藤)

下大和田

- 2月 9日 モズがセグロセキレイなどの鳴きまね(高山)
- 2月 11日 お腹の大きなアカガエルを見かける(田中)
- 2月 17日 フクロウが夕方飛翔(網代)



モズのカップル(撮影:高山)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター(TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

第31回 小山町YPP「田んぼづくりと自然観察」

2月に続いて学校田んぼづくりをします。ウグイスが鳴き、春の気配が高まる谷津で気持ちよい汗を流してみませんか? 小さなお子さんでもできる作業です。アカガエルのオタマジャクシが泳ぎだした谷津の自然観察もしますよ。

日時: 2008年3月15日(土)10:00~12:30 *小雨決行、荒天時は翌日16日に順延

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場

持ち物: 長靴(できれば長め)、軍手、飲み物、敷物など

参加費: 100円(資料代など)

第82回 下大和田YPP「味わおう!春の谷津田」

ウグイスの声が響き渡る谷津を散策し、春の野草を摘んで、天ぷらやおひたしにして味わいます。今年の春はどんな味かな?鳥たちのさえずり、動き始めた田んぼの生きものなど、春の息吹をたっぷり感じにお出かけ下さい。

日時: 2008年3月29日(土)10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。

また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 長靴、軍手、弁当、飲み物、お椀、小皿、はし、敷物など。

参加費: 500円(今回は食材費を含めた特別料金となります)

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

第99回 下大和田4月の谷津田観察会とごみ拾い

春!花や生きものも達も輝いてきました。ウグイスは囀り、シュレーゲルアオガエルの声も聞こえてくる頃です。春の谷津田を楽しみましょう。今回から午前中はみんなで谷津を散策し、午後は田んぼの作業をしたり引き続きの観察したりなど自由な活動にしたいと思います。午前中だけの参加でも結構です。午後までゆっくり谷津を楽しみたい方はお弁当を持参ください。4月はYPP田んぼの周りの休耕田の草刈りをしたいと思います。

日時: 2008年4月6日(日)観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場向かいラーメンショップ脇に10:00(同上)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

編集後記 今年も下大和田や小山でニホンアカガエルが産卵しました。毎年真冬に行われるこの不思議な自然の営みが見られる谷津田が今、少なくなっています。小山ではアシ原だった放棄田を田んぼに戻した場所がアカガエルたちの人気の産卵場所になりました。環境さえ整えばアカガエルも帰ってきてくれるのです。新しい小山の学校田んぼにも期待です。(高山邦明)